

講義コード	25468008	
担当者	林 宜 嗣 教 授	
研究題目	日本再生の処方箋を考える	
<p>少子化・高齢化、グローバル化、地域の衰退と格差の拡大……。日本は今、大きな構造問題をかかえています。これらの問題点を取り上げ、正しい現状認識、分析、議論を通じて、問題の解決策を考えることがゼミでの研究の中心です。その際、経済学的な物の見方がベースになることはもちろんですが、政治、行政、都市工学といった分野にも幅広い興味を持ってもらいたいと思います。</p> <p>研究演習入門の始めの段階では、新聞・雑誌等を材料にして発表してもらい、ゼミ生全員で質問・討論を行います。昨年度の入門ゼミでは、各自が関心を持ったテーマを1分間スピーチという形で報告してもらいました（この形式はゼミ生が考えてくれたものです。ゼミの運営形式についても、ゼミ生が考えます）。これは、知識を身につけることの他に、人前での発表や、話を聞き理解し、そして考えるトレーニングでもあります。</p> <p>これとは別に、グループを編成し、ゼミ生が適宜選択した複数のテーマについての共同研究を進めていきます。ゼミ生がこれまでに進めてきた研究テーマの一部を紹介しますと、「甲東園・関学間のバス料金を引き下げることの効果は??」「ゆるキャラの人気を決めるのは??」などです。テーマはゼミ生が選びます。研究成果は、ゼミ内ではもちろんのこと、親睦を兼ねた卒業生との勉強会（林葉塾と呼んでいます）、学内外の合同ゼミナールで発表し、この成果は冊子にまとめています。また、林ゼミでは、毎年、『研究演習Ⅲ』という研究誌を作成しています。これは、テーマの選定から、執筆、編集、座談会、印刷屋さんへの発注まで、すべてゼミ生の手作りによるものです。合同ゼミや本づくりの過程で、論理的な考え方、コンピューターによるデータ処理や分析力等、幅広い能力が身につくはずで。</p> <p>ゼミというのは社会で通用する「関学生」になるための準備を行う場だと考えています。正規の演習以外に、春、夏には合宿（旅行も兼ねた）を実施します。研究演習Ⅰでの夏合宿は他大学との合同研究発表が中心です。研究以外に毎年連続して実施しているものとしては、ゼミ旅行、大学祭への参加、コンパ、勉強を離れたゼミでの様々な企画があります。また、正月（毎年）の同窓会（林葉会）、関東林葉会（ほぼ隔年）で、卒業生との交流を深めます。今年はゼミ30周年記念が開催され、現在、現役生と卒業生が企画・準備を進めてくれています。さらに、卒業生と現役ゼミ生がともに勉強する「林葉塾」も是非、楽しんでもらいたいと思います。研究演習はゼミ生が主体的に運営をしますから、毎年、そのカラーは異なったものになっています。とにかく楽しんで、充実したゼミ生活を送ってください。</p> <p>過去の学業成績よりもむしろ、社会に出る前の残された2年半の間に何かやってみたいと思う人、自分達の手でゼミを作ってやろうと思う人の参加を希望しています。第1志望者が定員をオーバーしたときには、各方面でのゼミ活動に対する意欲を中心に、面接と面接用紙によって総合的に判断したいと思います。</p> <p>林ゼミの活動の様子を知りたい方はゼミのホームページ（<a href="http://www.kiss.ac/~seminar/">http://www.kiss.ac/~seminar/</a>）および経済学部のゼミ紹介をご覧ください。また、ゼミ（火曜日Ⅲ限、Ⅳ限）の見学も歓迎します。</p> <p>説明会のときに面接用紙を配布（研究室ドアにも準備します）ので、志望者は5月21日（水）18:00までに研究室ドアのボックスに提出して下さい。</p>		
受け入れ条件		面接用紙を提出し、面接を受けること。
担当者のプロフィール	専攻	財政学、都市・地域経済学
	現在の研究テーマ	都市再生、地域活性化、税制改革、地方分権
	所属学会	日本財政学会、日本地方財政学会、計画行政学会